

生産工程での水資源の保全

実績

GRI303-3
 GRI303-4
 GRI303-5
 GRI307-DMA

▶ 環境データ
 ▶ CDP Water Security(英語のみ)

味の素グループは、2030年度までに水使用量対生産量原単位を2005年度比で80%削減することを目標としています。2030年度の目標達成に向け、2018～2020年度の3年間は2005年度比で78%の削減を進捗管理目標と定めています。

2019年度は、基

年に対して水使用量は約155百万トン削減、水使用量対生産量原単位は約78%削減し、目標を達成しました。2020年度も各事業所における節水や生産プロセスの改善に継続して取り組みます。

水資源の保全目標と実績

	2019年度		2020年度目標	2030年度目標
	目標	実績		
水使用量対生産量原単位削減率(対2005年度)	78%	78%	78%	80%

水使用量・原単位の推移

(千kℓ)

	2005年度 (基準年)	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
総取水量*	221,863	76,912	74,041	74,844	69,892	66,926
地表水(淡水)	180,363	25,272	23,559	24,433	20,672	19,630
半塩水、海水	0	0	0	0	0	0
地下水(淡水、再生可能)	0	0	0	0	0	0
地下水(淡水、再生不可能)	—	16,972	15,859	16,371	15,076	14,366
プロセス水	0	0	0	0	0	0
市営水道水(含む工業用水)	41,500	34,668	34,623	34,041	34,144	32,930
使用量原単位(製品1t当たり原単位)	123	30	28	28	27	27
水使用量原単位削減率	—	75%	77%	77%	78%	78%
参考値 生産量(千t)	1,800	2,532	2,657	2,684	2,627	2,512
総排水量	201,300	60,873	59,701	60,464	55,800	52,342
河川、湖沼に放流(当社にて処理)	53,000	27,418	27,419	29,813	29,231	26,649
半塩水、海水域に放流	0	0	0	0	0	0
地下水に戻す	0	0	0	0	0	0
第三者処理(市営下水道ほか)	4,300	10,171	9,909	9,827	9,540	8,939
リサイクル・リユースした水量(間接冷却水の河川への排水量)	144,000	23,284	22,373	20,824	17,029	16,754
リサイクル・リユースした水量割合	65%	30%	30%	28%	24%	25%
総消費水量	20,563	16,039	14,340	14,380	14,092	14,584
総BOD排出量(t)	550	268	269	294	312	283
総窒素分排出量(t)	3,200	424	445	394	501	506

※ 取水量は、各国・地域の法律に準じて計量・請求された量あるいはポンプ電力・配管線速により量換算。排水の量・質は、各国・地域の法律に準じて計量された値を集計。

水資源の保全

実績

GRI303-1

▶ 「森を守り、水を育む。AGFグループの森づくり活動」

水源の森林整備

味の素グループは、2025年度までに飲料使用水森林涵養率を100%以上にすることを目標としています。2019年度の実績は85%でした。

味の素AGF(株)の生産拠点であるAGF鈴鹿(株)では鈴鹿川、AGF関東(株)では荒砥川(利根川水系)を水源とする水を使用しています。この水を育むのが、それぞれ鈴鹿山麓と赤城山南麓の森です。味の素AGF(株)と両社では、契約面積を拡大しながらこれらの森を保全する「ブレンディ®の森」活動を行っています。2020年度には、2025年度に実現しようとしていた面積(25ha以上)の保全活動を行う計画です。

また、「ブレンディ®の森」はお客様を招待できる森へとステージアップしており、工場見学とセットにした「自然体験」を実施しています。今後も、継続的にこの森を保全し、水涵養を続けるとともに、味の素グループ従業員の活動経験を地域のお客様にご紹介する機会を増やし、「サステナブル教育の森」としての活用も進めていきます。

飲料使用水森林涵養率の目標と実績

